

吉田裕二

れんが職人
よしだ ゆうじ



Yuji Yoshida



人生というれんがを 丁寧に積み重ねる職人技の 若き継承者。

江別のれんが

初めて
れんがを積んだ日の感動は
いつまでも忘れられない

「楽しいですよ、この仕事」

こぼれる笑顔に、まだ幼さが残る。

吉田裕二氏、21歳。れんが積み職人として、江別市の『榊島山レング施工』で修業を積み重ねている。

17歳で、この世界へ。きっかけはほとんど偶然のもので、強い意志があつたわけではない。体力的にも自信がなかったという。

「最初は、指示される作業をこなすだけで精一杯でした。それでも、任される仕事がちよつとずつ増えていき、おもしろくなってきました」

基本的には、れんが二つひとつをセメントと砂を混ぜたモルタルでつなぎ、手で積み上げていく地道な作業だ。北海道の厳寒期にはモルタルが凍ることもある。

れんがやセメントなど、現場で一度に運ぶ材料をだんだん重くしていき、自分でノルマを決めて体力づくりに励んだ。仕事から戻った後も、会社の倉庫でれんが積みの練習を繰り返す毎日が続く。

「初めてれんがを積ませてもらったときは、すっごくうれしかった」
若者らしい、素直な言葉に、その